

教科書の内容 確実に伝える

エネルギー環境教育へアドバイス

日本エネルギー環境教育学会 会長

澁澤 文隆氏 帝京大学大学院 教職課程科教授



しぶさわ・ふみたか＝東京教育大学（現筑波大学）付属中学校・高等学校教諭などを経て、1986年から文部省（当時）初等中等教育局で12年間、教科調査官を務める。エネルギー環境教育に出会ったのはこの教科調査官時代。専門の地理教育で資源問題や人間と環境の関係を扱ってきたこともあり、関心を深めたという。信州大学教育学部教授を務めたあと、2011年から現職。著書に『今、始めないと！エネルギー・環境教育』（東京書籍）がある。地理の教員らしく趣味は旅行。

「日本エネルギー環境教育学会」は、エネルギー環境教育に取り組む教師、研究者、エネルギー業界関係者などで構成する学会です。その会長に昨年8月就任した澁澤文隆氏は、新たにエネルギー環境教育に取り組もうとする学校関係者に対するアドバイスとして、「難しいことを考えず、教科書にあるエネルギーに関する内容を創意工夫し分かりやすく取り扱っていくことから始めてほしい」と話します。学校で、地域で、どうエネルギー環境教育に取り組むといいのか、聞いてみました。

——まず、日本エネルギー環境教育学会とはどういう学会ですか。

まず、通常の学会に比べて、教育現場の第一線にいる教師の会員が多いのが特徴で、エネルギー企業など幅広い層の会員がいるのも特徴です

——会長としての抱負をお聞かせください。

2005年に設立された学会

協働的な学びの場 提供を

「エネルギー環境教育、特にエネルギー教育は、十分に普及しているとは言いがたい状況にあります。それゆえ、まず、エネルギー教育の普及・拡大に注力していきたい。そのためにも会員の奮起に加え、エネルギー関連学会や経済産業省、文部科学省等の行政機関にも一層の支援をお願いしたいと思っています」

「そもそもエネルギー教育は、子どもたちに対する次世代教育も当然ですが、今の大人たち、つまり現役世代にこそ必要な生涯学習というべき内容です。生涯学習の課題ですから、興味を持って主体的に学んでいく必要があります。一方で、現役世代は子どもの時代に主体的に学ぶ形式の学習を経験してこなかった世代です。だからこそ、現役世代と次世代と一緒に参加し考える協働的な学び・活動の場を設定・提供したいですね」

——具体的な方策などありますか。



竹細工のLED風力発電を持ついわき市立好間第二小学校の児童と地域の竹細工専門家。エネルギー環境教育が定着する力基は、地域の人の関心を持ってもらい、参加してもらうこと

「例えば、小中学校などのPTAや地域単位で、子どもと大人が共にエネルギー施設などに見学しながら活動していく『エネルギークラブ』的なものを組織化していきたいですね。中学校に部活動・同好会的なグループを設立し、地域社会で住民と共に活動するものです。と、いうのも、エネルギー教育が長続きしている学校は、概ねPTA、児童会・生徒会と地域がうまく連携しているからです。そうしたエネルギー教育の先進校に学び、さらに発展させたい

——「例えば、小中学校などのPTAや地域単位で、子どもと大人が共にエネルギー施設などに見学しながら活動していく『エネルギークラブ』的なものを組織化していきたいですね。中学校に部活動・同好会的なグループを設立し、地域社会で住民と共に活動するものです。と、いうのも、エネルギー教育が長続きしている学校は、概ねPTA、児童会・生徒会と地域がうまく連携しているからです。そうしたエネルギー教育の先進校に学び、さらに発展させたい

現役世代にこそ必要な生涯学習

ですね」

——エネルギー教育の普及へ企業が努力すべきことは。

「エネルギー教育を普及させるためには、エネルギー関係の事業者の一層の協力が不可欠です。まず、企業のみならずには、自分たちの仕事・事業に対し、一般の人が関心を持てるよう一層の工夫をお願いしたい。例えば、施設見学でも、現状では見せ方の工夫が不十分に感じますし、リピーターがほとんどみられません。最近はコンピューター技術が発達しており、バーチャルリアリティ技術などを駆使してより興味を引く形に『見える化』を図っていただけだと願っています」



技術科・家庭科・美術などの授業にエネルギーを取り込んでいる京都市立西京高等学校附属中学校。教科の中で「エネルギー」を分かりやすく伝えることがエネルギー教育の第一歩

——これからエネルギー教育を始めようと考えている学校にアドバイスを。

「まず、教科書にある『エネルギー』の内容をしっかりと取り扱うことです。その教えるべき内容を確実に分かりやすく伝えることがエネルギー教育の基本です。エネルギー教育には、省エネルギーやごみの分別などの行動面も含まれるので、それらを児童・生徒が主体的に取り組むよう創意工夫して働きかけることも大切にしたいですね。」

——現在、エネルギー教育に取り組んでいる先生へメッセージを。

「エネルギー教育は、次世代への教育であるとともに、現世代・生涯学習の課題でもあります。自身の問題として、子どもたちと共に考え、ぜひ、地域社会に環を広げてほしい」

——子どもたちへのメッセージを。

「省エネルギー」という言葉ではなく、効率よくエネルギーを使う『効エネルギー』という言葉の下で、持続可能な社会、循環型社会をキーワードに夢やプランを大いに抱いてほしい。そして、その大きな夢やプランはいつか現実化するものと期待し、学んでほしい」